

E-1934



通商局

5

67/a.5045  
67/a.67

歐米局

公第 以九 昭和貳年貳月參日 接受 別 添附

昭和二年一月二十日

在浦潮新德

總領事 渡邊理惠

外務大臣 岡野啓介 幣原喜重郎 殿

極東國營林業「トラス」浦潮支部業績ニ関スル件  
本件ニ関スル當管已機関赤旗紙掲載記事別紙ノ通リ譯出供  
貴覽

寓 送付先 在露大使

在浦潮日本總領事館

E-1934

0368

極東國營林業「トラス」浦潮支部ノ業績（一九二一、二六年度）  
 極東國營林業「トラス」浦潮支部ハ昨年度ノ決算ヲ終リ其成績ヲ  
 檢スル處經營方面ニ於テ誤謬ハ明瞭トナリ、右誤謬ハ大部分  
 ハ勞力及之ガ補充組織問題ニ歸ス  
 造材及輸出事業

支部ハ造材事業ノ外木材ヲ輸出スルキ任務ヲ有ス、昨年度令支部  
 ハ總計百三十三隻ノ汽船ヲ傭船シ極東林業「トラス」令支部ノ  
 造材セル千百三十一万三千立方呎ノ木材ヲ日本支那、印度及英國  
 ニ運送セリ、運送ニ從事セル汽船ハ日本船九十六隻、露國  
 船十八隻、其他外國船十八隻計百三十二隻ニシテ之等ノ汽船  
 ハ各種木材千二十八万立方呎ヲ日本ニ、百万七千立方呎ヲ支那ニ  
 一万七千立方呎ヲ其他ノ諸國ニ運送セルガ其價格ハ總計五百二十一  
 万六千八百八十留ナリ

在浦潮日本總領事館

輸出木材ノ種類

千百三十一万三千立方呎ノ輸出木材中赤松丸太ハ五百九十六万六千立方呎、其他  
 丸太ハ百三十一万立方呎、白楊丸太ハ二百三十八万四千立方呎（内二百六万四千  
 立方呎ハ日本ニ輸出セラレタリ）ニシテ各國ニ輸出セル板敷ハ二十万三千立  
 方呎ナリキ

輸出木材ノ主トモハ丸太ニシテ就中赤松丸太ハ五十餘、ハセトラトハ、赤松丸太及  
 白楊ハ輸出ノ基礎ニシテ輸出木材ノ七五、ハセトニ當タル、前記木材ノ外蝦夷松  
 及松丸太、製紙用各種丸太、電柱、枕木、角材、枕木、ヲ輸出スレドモ  
 比較的ニ少量ナリ

沿海州木材ノ需用者

曾テ沿海州木材ハ米國、歐洲、亞弗利加、及印度ニ販路ヲ有セルガ  
 帝國主義戰ハ之等ノ市場ヲ奪取シ現在ニ於ケル其主要ナル需用  
 者ハ日本ニシテ支那ハ第二位ニ在リ、其他ノ市場ハ漸ク出現セントス、





**„Дальлес“**

Владивостокское отделение «Даль-  
леса» закончило отчет за прошлый год.  
Подведены итоги прошедшей работы.  
Выявлены ошибки в операционной ра-  
боте, которые в большинстве своди-  
лись к вопросам о рабочей силе, ее  
укомплектовании и организации.

2/1-277  
Крас. 31-ка.

**ЛЕСОЗАГОТОВИТЕЛЬНАЯ И ЭК-  
СПОРТНАЯ РАБОТА.**

На отделение, кроме заготовитель-  
ной работы, возложены и функции по  
экспорту лесных материалов. За прош-  
лый год отделением было зафрахтова-  
но общим числом 132 парохода, кото-  
рые перевезли в Японию, Китай, Ин-  
дию и Англию 11.313 тысяч кубофут  
лесоматериалов, заготовленных всеми  
филиалами «Дальлеса». В перевозках  
леса приняли участие на 132 парохо-  
дов—96 японских, 18 русских и 18  
прочих флагов. Эти пароходы перевез-  
ли леса всех сортов и наименований в  
Японию—10.280 тысяч кубофут, в  
Китай—1.007 тысяч кубофут, в про-  
чие страны—17 тысяч кубофут,—  
всего на сумму 5.216.181 рубль.

**ЧТО МЫ ВЫВОЗИМ.**

Из 11.313 тысяч кубофут было вы-  
везено бревен кедровых—5.986 тысяч  
кубофут, прочих бревен—1.300 тысяч  
кубофут, осиновой и тополевой дурки  
—2.284 тысячи кубофут, из которых  
было 2.064 тысячи вывезено в Японию.

Целоматериалов во все страны было  
вывезено 213 тысяч кубофут.

Основными предметами экспор-  
та нужно считать бревна кедровые,  
причем кедровые бревна занимают 50  
с лишним процентов. Кедровые бревна  
и осина—стволы во до экспорта—  
на эти две породы падает 75 проц. вы-  
воза. Кроме этих пород и сортов, мы  
вывозим еловые и сосновые бревна,  
баласы разных пород для выработки  
бумажной массы, телеграфные столбы  
и рудничную стойку, брусья и шпалы,  
но в сравнительно незначительном  
объеме.

**НАШИ ПОТРЕБИТЕЛИ.**

Прежде приморский лес находил  
рынки сбыта в Америке, Европе,  
Африке и Индии. Импералистическая  
война вырвала эти рынки. В настоя-  
щее время основным нашим потреби-  
телем является Япония и на втором  
месте—Китай. Остальные рынки толь-  
ко начинают выматываться. Сейчас япон-  
ский рынок берет у нас 90 проц. всего  
экспорта леса.

在浦潮日本帝國總領事館



7

政

山形

671A.67  
671A.5045

通商司

第二課 板根

公第 三九 號

昭和貳年貳月九日 接受

附屬書類添付

昭和貳年壹月卅日

在ハバロフスク

總領事代理 川角 忠 雄



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

ダリレスノ木材輸出状況ニ関スル件

本件ニ関シ極秘換閣紙記事ニ依リ所参考迄別紙ノ通  
報告ス

(昭和二年一月十三日附機密第一八号独信中、ダリレ  
ス木材本邦輸出ノ項参照)

在ハバロフスク日本總領事館

E-1934

0372





海外報掲載濟  
昭和2年2月25日  
第753號

6667/A.67  
667/A.5845

通商局

公第

五

昭和二年二月五日 拾四日接受

別添附

昭知二年二月五日

在浦潮斯德

總領事 渡邊理惠

外務大臣男爵幣原喜重郎 殿

一九二二一七年度ニ於テ極東國營林業トラスト

ノ作業計劃ニ関スル件

當管已機關赤旗紙ハ本件ニ関スル極東國營林業トラスト理

事會長「マズニヨ」ノ談話ヲ掲載シタルニ付別紙ノ通り譯出

供貴覽

寫送付先、在露大使

在浦潮日本總領事館





2,157

16

一九二六—二七年度に於て極東國營林業ト云フノ作業計劃

本件に關し極東國營林業ト云フノ理事會長マズニニコフハ渡支ノ  
余次浦潮ニ立入寄り赤旗記者ニ左ノ通り語レリ。

極東國營林業ト云フハ支那市場ニ大ナル興味ヲ以テ居ルカ若シ沿  
海州輸出木材ノ概略的仕向狀況ヲ知レバ其興味ノ如何ハ更ニ明瞭

トナリ沿海州木材ノ賣上總額ニ於テ對支輸出高ハ一三%ニ對  
英輸出高ハ六%ニ對日輸出高ハ七八%ニ對シテ居ル。

故ニ日本市場が沿海州木材ノ輸出方面ニ於テ大ナル意義ヲ有ス  
ルハ明瞭アリ且沿海木材ハ大ニ日本市場ニ左右サレテ居ルコトカ

解シ而カモ日本が專ラ原料ヲ要求シテ居ル狀態ニ依テ此種  
鮮小東ニ木トナリ居ル極東國營林業ト云フハ製品ノ販賣ニ

味ヲ持テ居ル故ニ日本市場ノ斯ク極度ノ羈絆ヲ脱セント努メテ居  
ルハ勿論アル。

在浦潮日本總領事館

木材ノ輸出ハ木材ノ品質ニ餘リ拘泥シナイ支那市場ノ掌握ニ依テ  
始メテ最近完全ニ之ヲ増進スルコトが出来テ居ル。斯ル狀態ニ依

テ予ノ旅行ヲ見テ譯デアルカ予ハ支那市場ニ於テ板材及被木ノ販  
路開拓能否問題ヲ解決スベキ任務ヲ有シテ居ル。極東國營

林業ト云フハ支那市場ニ於テ包装用被木ノ可ナリ大ナル販路ヲ  
獲得スル豫想アル。

比較的最近極東國營林業ト云フハ倫敦市場ニ最初ノ被木  
ヲ送リタガ第一回ノ試驗成績ハ良好テ英國ノ各商會ハ沿海州

被木ニ大ナル興味ヲ抱イタ。然レトモトモ現在倫敦市場テ被木  
ノ賣買取引ヲ増進スルコトハ豫想ニナシ倫敦市場ハ安値ノ

為取引ハ不利益アルカラデアル。

此際指摘スルノ要アルハ極東國營林業ト云フハ南東ニシテ  
インド及濠洲市場ニ於テ被木ノ販賣ノ手段ヲ講ビタ事デアル。

AS

本年ハ右市場ニ對シ概本ノ最初ノ見本ハ發送サレテ  
アリ。

極東國營林業トラスト、一九二六―二七年度造林計劃ハ昨  
年度ノ夫ヨリモ著ク超過シテ居ル。即ケ一九二六―二七年度ニ  
於テハ一九二五―二六年度ヨリ一〇七、〇〇〇立方尺多ク造林スル事  
トナラテ居ル。

トラストハ昨年度ノ造林高ニ千二百立方尺ノ代リニ本年ハ  
四千七百立方尺ヲ造林スル豫想ナリ。而モ財政及組織方  
面ニ於テ幾多良好ナル條件ガアルトテトラストハ此莫大ナリ計  
劃ヲ完全ニ實行スルコトヲ期待シテ居ル。

大部分ノ造林ノ行ハルハハハロク管已ノ二千五百二十一万二千  
立方尺、次ハ浦潮管已ノ四千立方尺デアリ。残餘ノ千二百立方  
尺方尺ハ知多管已及黒龍管已ニ於テ造林サルデアロウ。

在浦潮日本總領事館

一九二六―二七年度ノ木材輸出ニ於テ極東國營林業トラストハ  
露西亞社會主義聯邦ソビエト共和國全木材輸出計劃ノ約  
五〇、〇〇〇%ヲ包容スル事ハ特筆ニ値ス。一般計劃ニ依ル本  
年度ハ外國市場ニ對シ二千五百萬留ノ木材ヲ輸出スル豫想デア  
ル中極東國營林業トラストノ木材輸出額ハ千八百八十萬留テ  
アリ。

既ニ展開セル造林振ヨリ見レバ、極東國營林業トラストガ計劃  
ヲ實行シナイガウト思考スル根據ハナシ。極東國營林業トラスト  
ハ二月一日現在ノ造林高ハ既ニ千五百萬立方尺デアリ。

(二月五日 赤旗紙)























671A.67

歐米周

4

本簿 一一 號

一 昭和貳年四月廿五日接受

簿二 簿

7

附録 添附

昭和二年二月九日

在ペトロパウロフスク

領事館事務代理 間庭秀文

文書印

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

堪察加管区林業ニ関スル件

本件ニ関シ何等御参考迄別添ノ通報告申進ス

追テ本報告ハ菅管区機内紙本年一月中掲載ノ論説

並報道ニ據ルモノナリ爲念

在ペトロパウロフスク日本帝國領事館

E-1934

0388

堪察加管区林業

當管区内ノ森林地帯ニ関シテハ從來十分ナル調査行ハレタルコトナク  
從テ林業トシテハ住民ノ薪材伐採程度ニ止リ其ノ發達ノ何等見  
ルヘキモノナカリシカ當地方ニ於ケル建築用材ヲ浦潮ヨリ供給ニ待  
ツノ不便不利ヲ痛感シタル管区當局ハ先ツ林務部ニ命ジ當地方  
林業ニ付具體的調査ヲ開始スルニ至レリ

林務部ノ有スル比較的正確ナル最近ノ統計ニ據レハ管区内各郡ノ  
森林地帯面積左ノ如シ

アナドウィル郡	三八八九〇平方露里
ペンジスコカラギニスク郡	二八二三六平方露里
チギーリスク郡	一三二二九平方露里
ボリセレツツク郡	一一四五九平方露里
ペトロパウロフスク郡	一〇九三七平方露里

在ペトロパウロフスク日本帝國領事館

其他

五七八八平方露里

合計

一六〇六三九平方露里

他ニ四百萬「デヤ」チニ内外ノ杉 (Cedar) 林アリ

森林地帯ノ主ナル樹木ハ落葉松及白樺ニシテ其ノ數ニ関シテハ未ダ

何等ノ統計ナシ

一九二六年秋「カムチトカ」河流域ノ森林調査ヲ行ヒタル林務官

「コレニエンコー」氏ノ報告ニ依レハ同流域ニ於ケル立木數左ノ如シ

落葉松	二〇、五三六、〇〇〇本
白樺	三五、一五〇、〇〇〇
杉	七八〇、〇〇〇
白楊	一、四四〇、〇〇〇
計	二六、三三一、〇〇〇本

而シテ一年間ニ同流域ヨリ伐採シ得ヘキ數左ノ如シ

落葉松	三六〇,〇〇〇本
白樺	五八〇,〇〇〇〃
杉	一三〇,〇〇〇〃
白楊	二三〇,〇〇〇〃
計	四五四,〇〇〇本

管区當局ニ於テハ「カムチャトカ」河流域ニ製材所建設ノ議アルモ  
其ノ資金ハ最低ニ萬留ヲ要スヘク管区目下ハ財政状態ニテハ相當  
困難ナル問題ナリ

(3)

在ペトロパヴロフスク日本帝國領事館





東京橋大倉組内  
雨降 飲林 葦田合  
三三 奉 為 御  
シ 如 御 也



外務省

E-1934

0391

公 信 案

文書課長

文書課發送昭和貳年貳月拾日發送

淨書 昭和貳年貳月拾日

正校 (原稿) (淨書)

甲號用紙

受 信 人 名

農林省 山林局長

發 信 人 名

歐米局長

件 名

極東國産林業トマシ  
浦潮文部ノ書送ニ因ル件

綴 込 名

御参考ノ爲別紙送付ス

昭和二年一月廿一日附在浦潮館來  
普通第四九號寫並附屬書寫

公 信 案

外 務 省

手冊

第一課

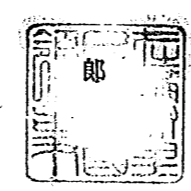
別紙添付

公 第 四 四 號

昭和二年二月十六日

在滿洲里

領 事 田 中 文 一 郎



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

逓信局第三課

歐米局第二課

612A.67

「ハルゴ」驛附近林業「コンセスション」ニ關スル件

加瀬  
正月十一日ノ當地新聞「ジウオエ、スロウオ」ハ哈爾濱建築商社 Bee-  
morise Impremetrie Koo. ハ東支鐵道ヨリ建築ノ請負ヲナシ居  
レルカ今般西部線「ハルゴ」驛ヨリ四十露里ノ地點ニ林業「コンセス  
ション」ヲ得タルカ「ハルゴ」驛ヨリ二十六露里アル枝線迄ノ木材積

在滿洲里日本領事館

E-1934

0392

機密  
寫

出ニ困難ヲ感シ同商社代表者「ウラノフスキイ」ト「ソフトルグフロ  
ト」(「ソウエト」商船部)滿洲里代理店トノ間ニ林區及枝線間十五露里  
間ノ木材運送契約ヲ結ヒ「ソフ」ヲ「グフロト」ハ之ヲ滿洲里商人「コ  
ロボフ」「グ」ヲ「ホフスキイ」「パリトナ」等ニ下請負ヲ爲サシムルコトト  
シ駱駝八十頭馬百七十頭ヲ雇入レ「ハルゴ」驛ニ送り右下請負人等ハ  
現ニ林區ニ在ル旨ヲ報道セル處右枝線ハ我方關係ノ札免探木公司ノ  
林區内ニ在リ林區モ近接シ居ルニ付心當リニ就キ問合セタルモ右ハ「  
ソウエト」側カ關係シ居レリト稱スル位ニテ詳細不明ナルヲ以テ其實  
狀ニ關シ在伊立克都驛札免探木公司林區支配人ニ問合セタルニ別紙寫  
ノ通り回答アリタルニ付右御參考迄ニ報告申進ス  
本信寫送付先 在奉天及哈爾濱總領事  
在齊齊哈爾領事

在滿洲里日本領事館

林發第一五六號  
昭和二年二月十四日  
札免探木公司林區事務所  
支配人 八木象次郎  
在滿洲里  
日本帝國領事館御中  
「ハルゴ」驛附近林區ニ關スル件  
拜啓首題ノ件ニ關シ二月十二日付雜第一〇號ヲ以テ御照會ノ趣拜承仕  
候當方ニ於テ承知シアル點左記ノ通りニ有之及御回答候 敬 具  
左記

在滿洲里日本領事館

一 東亞建築組合ハ哈爾濱「アルチレイスカヤ」街三十一號ニ本店ヲ有スル請負人ノ組合ニシテ猶太人「ゼレーズニヤコーフレ」キワシン「ソングリン」等ノ合同ナクカ如ク哈爾濱猶太銀行ヲ出資者トシテ活動中ナルカ如シ

但シ彼等ハ哈爾濱ニ於テモ知名ノ悪辣家ナルカ如シ

而シテ今回「ホルゴ」附近ニ於テ伐採中ナルハ東支鐵道トノ契約ニ基キ主トシテ札來諾爾漢坑坑木ヲ主トシ枕木等モ相當數量ニ達スルモノゾ如シ

二 林區ノ同組合ハ「ホルゴ」附近ニ何等ノ「コンセス」シヨシヲ有セス博克圖新義公司ハ李德方經營木材公司ニ所有林區ハ同林區ハ博克圖西南方ニ在リ札來公司林區ニ隣セルモノト謂フモ其位置境界範圍等明瞭ナラス一昨年任德明ナルモノ之ヲ獲得セルモ博克圖ヨリ距離遠ク運材困難ナル爲メ昨年夏新義公司ニ其權利ヲ四千元ニテ

在滿洲里日本領事館

一 賣却シタリト謂フ「」ヲ探伐シ立木代金ヲ支拂フモノニシテ之カ運材ハ札來公司ノ「ホルゴ」支線ヲ利用スル計畫ナルカ如ク屢々當公司ニ對シ林區内ノ「」借方ヲ申出アルモ彼等ハ内實ニ於テ當林區ノ盜伐ヲ行ハントスル魂膽ヲ包藏スルコト推察ニ難カラサルヲ以テ其都度之ヲ拒絕シ來レルモ彼等ハ其後モ依然勞動人馬ヲ集メ目下ニ於テハ馬四三百頭餘六十頭ニ達シアルカ如ク依然札來林區「ホルゴ」終點三十六露里附近ニ木材ヲ集積シツツアリ

三 裏面關係 現東支鐵道材料課長某ハ猶太人ナルヲ以テ前記東亞建築組合員等トノ關係密接ナル爲メ彼等ヲ後援シツツアリテ「ホルゴ」支線開通ニ就テハ既ニ昨年九月頃ヨリ東支トノ間ニ諒解アリ東支鐵道ニ於テハ該支線修理ニ關スル豫算ヲモ計上シテアリト謂フ

而シテ之等行動ニ就テハ元ヨリ「」等カ暗通シアルコトモ亦推察ニ難カラズ前記任德明モ亦「」ト懇親關係ニアリヲ以

在滿洲里日本領事館



ナ彼ヲ通シテ支那側トモ諒解アルニアラサルカト案セラルル點アリ  
何トナレハ當方ハ屢々支那側ニ對シ彼等ノ行動ニ制肘ヲ加ヘンコト  
ヲ提議シアルニ不拘支那側代表柳氏ハ我々ニ辦法アリト言フノミニ  
シテ如何ナル辦法ナルヤ頗ル其意向ヲ曖昧ニナシアル點ニアリ  
又「ホルゴ」支線ハ「セ」ハ札免公司ニ對スル投資物ノ一タルニ  
不拘「セ」ハ窺ニ同支線ヲ沿線建物ト共ニ東支鐵道ニ交付スヘキ契  
約ヲ爲シアルノ形跡アリ

四 當公司ノ對策 當公司ニ於テハ林區權ノ保護上ヨリスルモ極力之  
カ不法ノ防壁ニ努ムヘキハ勿論ナリト雖も支那側ト共同スルヲ最モ  
便利トスヘキニ不拘支那側ノ態度曖昧ニシテ果シテ斷然タルノ處置  
ヲ執採ルヤ否ヤ未タ不明ナルヲ以テ一面ニ於テハ東亞建築組合ニ對  
シ抗議スルト共ニ支那側ノ意向ヲ探究スルニ努メ其狀況ニ依リ更ニ  
對策ヲ決定スル豫定ナリ

在滿洲里日本領事館

通商局

671A.67

公第貳五號

昭和貳年參月拾六日

昭和貳年參月 老日

第一號

附屬物添付

在武市

領事 平塚晴

外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

有多年管迄ニ於ケル林業

標記ノ件ニ關シ別紙ヲ通り報告ス

在ブラゴエズチェンスク日本領事館

口フスチーレ製鉄所、炭玉木材準備部、刑務所、軍  
 用等各方面ノ木材ニ付スル需要ハ年々ニ増加シ、一  
 九二六年中木材ヨリノ炭玉収入ハ四十七萬四千二百  
 八十八圓三十三圓ニ上リタル盛況ニ鑑ミ今回炭玉木  
 材準備部ハ大々的伐材作業ヲ目論ミ前記レバ製鉄  
 所ニ付シ林野貸付ダ行フト同時ニ「ブリヤート」  
 モニゴールレ高ト支障ノ上「セレ」ガ「ク」イ  
 レ川ノ漂流ニ依リ伐採木材ノ「少」正ル「ホ」カ「ド」  
 「ス」ク「レ」方面ヘノ輸送、又本年秋季以降「カ」ノ「シ」  
 川ニ依ル「ア」ク「シ」レ「方」面木材ノ「カ」口「サ」シ「ク」

在外公館

有多良玉ニ在ケル林業

有多良玉内森林総面積一ヶ萬「ハ」ク「タ」レ「中」現ニ  
 農民ノ利用ニ居ルモノ約百萬「ハ」ク「タ」レ「ト」  
 口「バ」ウ「口」フ「ス」チ「ー」レ製鉄工場ニ付テ計畫中ノモノ  
 六十萬「ハ」ク「タ」レ「余」ヲ除ケバ、従来有多良玉森林ノ南  
 極「ハ」古「ト」シテ鉄道沿線、都市近郊及木材漂流ニ由ス  
 ル諸川ノ沿岸ノニ限ラレ交通ノ便悪キ製地ノ森林  
 ニ至リテハ未ダ之ガ産業的價値ヲ顯ルノ暇無ク僅カ  
 ニ地方民ノ小規模ナル伐採ニ奉テ来リタル有様ナル  
 處、有多良玉木材部、後貝加島鉄道、「ト」ペ「ト」口「バ」ウ

在外公館

レ 駭ヨリ滿洲方面へノ積出ヲ計畫シツ、アリ。

因ニ右木材準備部へレス、ガグハ昨年一月組織

以來同年九月末日迄ニ鉄道枕木材、薪材ハ四五七

四五五方サージエニ、丸木材等総額三十萬留、此

純益金一萬八千留ヲ獲、其ノ南極林野ハ五十七百十

五露町ニ及ビタルガ、本年迄ニ於テハ前記ノハト

パウロフスリ、アケンニスリ、地方ノ外、ヒロク

スリ、モグゾニスリ、ケコイスリ、イニゴダ

ニスリ、アレングイスリ、等諸地方ニ於テ約百四

万九千留、木材ヲ行フ豫定ナリト

在外公館

三二二〇・後貝加和概開級

在外公館

E-1934





4

各國之林業ノ事

別紙添付

公第 六三 號

昭和二年三月四日

在滿洲里

領事 田中文一郎

外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

ハルビン驛附近林業コンセスシヨニ関スル件

本件ニ関シ且曩ニ各月十六日附公第 四四号ヲ以テ  
報告ヲ進置タル屬其後ノ事情ニ関シ今般札  
免探木公司林区事務所ヨリ通報アリタル事  
右字別紙ノ通り茲ニ送付申進ス

在滿洲里日本領事館

分類 E 4. 4. 0. 4 )

通商局第二課  
歐米局長  
6124.62

本信ヲ送付先 在奉天及哈爾濱總領事

在滿洲里日本領事館

E-1934

0399

林發第二二一號

昭和二年三月二日

扎免採木公司林區事務所

支配人代理 八木象次郎

在滿洲里

領事 田中文一郎 殿

哈爾濱國地状況ニ関スル件

拝啟者題ノ件ノ別紙ニ通り有之將來御撥

助賜ノ度御報告旁々得貴意候 敬具

配布先 齊々哈爾濱領事

滿洲里領事

齊々哈爾濱鐵道所

安藤公館

在滿洲里日本領事館

昭和二年二月二十五日

哈爾濱國驛東南地区ニ於ケル

東方建築組合木材伐採ニ関スル件

一伐採作業着手前後ノ情况

昨年九月東方建築組合ハ東支鐵道ニ對シ哈爾濱圖待

避驛ノ開設並ニ哈爾濱國支線(扎免公司ニ屬スル全長ニ

十六露里支線)開通運動ニカマツ、アルコトヲ聞知シタル

ヲ以テ警戒中ナリレカ十一月初旬ニ至リ彼等ノ一部ハ

定切カニ興安嶺ヨリ入山シ哈爾濱國支線一帯ヲ調査シ

歸哈爾濱タルカ當時同行セル者ノ誤ニ依リハ同組合ハ東支

鐵道ヨリ相當數量ノ注文ヲ受ケ之カ伐採ハ「ホルガー」支線

末端附近新義公司林区ニ於テ行ヒ同支線ニ由リ運搬

スル豫定ニシテ爲之同支線ニ由リ二十六露里建物(扎免

在滿洲里日本領事館

公司所屬ノヲ利用シ事務所ヲ開設スル豫定ナルト等判  
明セルカ彼等カ公司ノ支線及建物ヲ使用セントスルニ豫メ  
當公司ヨリ何等諒解ヲ得ルコトナク專斷ヲ以テ斯ル計畫  
ヲ行ハルハ蔡スルニ當林区ノ盜伐ヲ目的トシアルニアラサルヤノ  
疑アリレヲ以テ同組合使用人等ニ對シ同組合カ不正ヲ  
行フニ於テハ竟假セサルヘキ意ヲ洩シ置キタルニ遂ニ十月  
下旬ニ至リ同組合ヨリガール附近仕徳明林区伐採ノ爲  
メ労働者宿舍トシテ二十六露里同ニテ七露里建物貸  
與方書面又ハ口頭ヲ以テ照會シ來レルモ彼等ノ意圖  
ハ怪シクハキト莫アリレヲ以テ當方ニ必要アリトテ之ヲ拒絕シ  
且ツ將來不快ナル事件ノ發生ヲ豫防スル爲メバラウ以  
外木材ノ伐採ニ就テモ充分労働者ヲ取締ラントテ  
要求シ置ケリ

在滿洲里日本領事館

然ルニ彼等ハ前記ノ企圖ヲ變更スルコトナク着々準備ヲ  
進メ昨年末ヨリ本年初ニ亘リ労働者約二百名運材馬  
正約三百頭(大部ハ滿洲里方面ヨリ一部ハ牙克石並ニ博克  
圖方面ヨリ)ヲ入山伐採ニ從事セルノミナラス當公司林区  
ノ隨意ニ木材集積ノ爲メ土場ヲ設ケ或ハ事務所用ハ  
ラツクレヲ建設セルノミナラス一部分盜伐ヲモ行ヒアル形跡  
アルヲ以テ共同経営者タル支那側ニ對シテハ林区保護ノ  
爲メ林区保護共同取締ニ任スル必要アルコトヲ屢々提  
議セルモ支那側ニ於テモ辦法アリト云フノミニレテ何等之ニ  
對スル處置ヲ講スル形跡ノ認ムヘキモノナキノミナラス某間  
某程度ノ諒解アルヘント疑フヘキ莫アリ共同取締ヲ期待  
シ難キヲ以テ本年二月十四日重ネテ東亞方建築組合宛  
ニテ公司所屬林区ニ於ケル不法行為ヲ詰リ且ツ速カニ土場

在滿洲里日本領事館

及ハラスクノ撤退ヲ要求スヘキ抗議書の書面ヲ送付セルカ  
 同月二十日書面ヲ以テ同組合ハ永利公司ト共同伐採ヲ行フ  
 モノニシテ伐採区ハ永利公司及佐徳明ニ屬スルモノナルコト及  
 札幌林区内ノ土場及ハラスクノ建設ハ永利公司ニ於テ充當  
 シタルモノナルヲ以テ同方ニ交渉セラレ度同組合ハ何等不法  
 ヲ爲シアラサル旨回答シ來レルヲ以テ同二十日敬書ヲ以  
 テ永利公司ハ札幌公司ト何等ノ關係ヲ有セス從テ公司  
 財産ヲ自由使用ノ權限ヲ有セサルヲ以テ斯ル無關係者ト  
 交渉ノ必要ヲ認メズ速カニ撤退ヲ要求スル旨通牒シタル  
 カ依然トシテ作業ヲ續行シ既ニ林区支線ニ十六路里附  
 近ニ凡六枚約七千本ヲ集積シタルノミナラス東支線道ニ於テハ  
 哈爾國支線修理命令ヲ發シ着々準備ヲ進メ同待機  
 避驛ハ三月一日之レヲ開敷スルコトニ決シ驛員等ヲ任命

在滿洲里日本領事館

セリ

ニ裏面的關係

ハ東方建機組合ハ哈爾濱「アルケイル街三十一号」ニ事務  
 所ヲ有スル猶太系露人ノ組合ニシテ技師「ゼーリスニヤ  
 ク」請負人「キツケ」ウラノフスキ「ソグリン」等關係シ  
 アリ猶太銀行ヨリ資金ハ供給ヲ受ケアルカ如シ殊ニ  
 現東支線道材料ニ課次席「某」猶太人ニシテ彼  
 等ト密接ナル關係ヲ有シ之レニ一味シアルヨリ札幌諸商  
 炭坑坑木凡六約七萬本ノ注文ヲ受ケタルノミナラス將  
 來相當多額ノ伐採ヲ行フヘキ計畫ヲ有スルカ如ク支  
 線ノ輸送ハ「農貿易運輸會社」之ニ任スヘトモ云テ  
 而シテ彼等ノ一部ハ哈爾濱ニ於テモ「惠殊炭」トシテ定  
 評アリ當林区附近ノ伐採ニ着手スルニ至レルハ佐徳

在滿洲里日本領事館

明及「セフケン」等トノ畫策與ツテカアルカ如シ  
 任德明ハ元ト海拉爾督辦公署ノ露語通譯タ  
 リレ關係上中國官吏及露國人側ニ相當知人  
 ラ有レ惡辣家トシテ亦定評アリ一昨年博克圖白  
 南方ニテ扎兔林ニ隣接セル林区ヲ農商部ヨリ獲  
 得シタリト稱シ事實ハ扎兔林区ノ盜伐ヲ行ヒ來レル  
 カ昨夏新義公司(博克圖ニアリ林区ヲ有レ李德夫  
 ナルモノ經營者タリ)昨年組織ヲ変更シ齊々哈爾濱省  
 議會長李維周、吳督軍子息某師團長等  
 ヲ名議上ノ資格者トセリ)ニ約四千元ニテ同林区ノ權  
 利ヲ讓渡シタルカ如シ但シ同林区ノ位置境界等ハ  
 新義公司ニ於テモ明カニセサルモノ、如ク曖昧ナルモノナ  
 ルモ新義公司ニ於テモ自己ノ林区ヲ盜伐セラル、ヲ恐

在滿洲里日本領事館

レタルニ依ルカ如シ而シテ任德明ハ上記ノ關係ヨリ自  
 ラ東方建築公會ヲ組織シテ新義公司トノ間ヲ媒介シ  
 シ同林区ヲ伐採スルコトナリ新義公司ハ之ヲ代價トシテ  
 伐木代金ヲ徴收スルコト及問題惹起ノ場合ハ任德明  
 カ全責任ヲ負ヒ新義公司ニ對シテハ累ラ及サルコト、シ  
 契約成立セルカ如キモ其反面ニ於テハ前記同公司關係  
 者タル者議會長及吳督軍子息某等ノ勢力ヲ利用  
 シ扎兔林区ヲ利用セントスル魂胆ヲ包藏シアリシカ  
 如シ然ルニ新義公司ニ於テモ從來彼等ノ行為ヲ熟  
 知シアルヲ以テ後難ヲ恐レ自ラ之カ衝ニ當ルトヲ躊躇  
 スルノ色アリ扎兔林区ニ於テハ林区ヲ使用ニ對シ強硬ニテ  
 拒絶シ應スル色ナキヲ以テ遂ニ任德明及同組合ハ永利  
 公司ト共同スルノ方法ヲ採ルニ至レルカ如シ

在滿洲里日本領事館

永利公司ハ昨年未博克圖ニ於テ木材業ヲ始メタル  
 モリニテ博克圖南方ニ林ヲ有スルト稱スルモ駿昧ニ  
 シテ幽靈林ニナルカ如シ資本主ハ在齊々哈爾施兵團  
 長王南屏ニシテ常ニ部下將校及兵卒ヲ派遣シ任民  
 ヲ威脅シ他林ニノ盜伐ヲ行ヒ來レルニナラス巴里木  
 魯一帯ニ於テモ悉ク自己ノ林ニナリト稱シ高價ナル伐木  
 代金ヲ徵收シ地方商民ヲ苦シメトフアルモ彼レハ現齊々  
 哈爾森局長ト密接ノ關係ヲ有シ相當ノ勢力ヲ有スル  
 ヲ以テ後難ヲ恐レ何人モ之ニ対抗シ得サル狀況ナリ依  
 テ東方建築組合ハ新義公司ヲ見切り永利公司ト結  
 フニ至リ王團長ヨリ全責任ヲ負スヤ保証ヲ得タルカ  
 如ク為之ニ又東方建築組合ハ當方ノ抗議ニ對シテ  
 モ永利公司ヲ看做トシ對抗セント試ミツアルカ如シ

在滿洲里日本領事館

而シテ新義公司ハ責任ヲ迴避シツアルモ立木代金  
 ノ徵收ニ依リ相當ノ利益ヲ期待シ得ヘキ所以ナルヲ以  
 テ暗々裏ニ齊々哈爾方面ニ運動詭解ニ取カメツアルカ  
 如ク齊々哈爾政廳ニ於テモ某程度ノ詭解ヲ興ヘルニ  
 サルカ  
 尙近時博克圖ニ於テハ新義公司ト永利公司間立木  
 金分配ニ關シ早クモ紛争ヲ生シツアリトカ又ハ佐徳明カ  
 新義公司ニ自己ノ林ニ權ヲ讓渡セル際四千元ノ四一  
 元ノ手付金ヲ交付シ残余ヲ仕掛ハサル為メ同林ニテ永利  
 公司ハ轉賣シ紛争中ナリトガノ風評行レツアリ  
 又「ホルゴ」支線ハ「セ」ヲ在シカ之ヲ丸免公司ニ之レヲ  
 枚取員シナカラ他面ニ於テハ同支線及附屬諸建物等  
 ヲ讓渡ノ約アリトモ云フ

在滿洲里日本領事館

三、當公司ノ對策

以上ノ如ク東方建築組合ノ行動ニ就テハ相當久シキ間ニ亘リ計畫セラレアルノミナラス東支鉄道ニ於テ之ヲ後援シ且ツ齊々哈爾濱方面ニ於テモ某程度ノ諒解アルコト推察セラル事実等ニ鑑ミ當公司ノ嚴重ナル抗議等モ之ヲ無視シ作業ヲ繼續スヘシト雖若シ之ヲ黙認スルニ於テハ日本份權利ノ將來ニ及ホスヘキ影響歎カラサルヘク支線使用問題ニ東支ノ行動ヲ放任スルニ於テハ亦タ同様ノ影響ヲ蒙ルヘキコトナルヘキヲ以テ彼等ノ行動ヲ制肘シ相當ノ脅威ヲ加ル為メ「ホルボー」支線ニテ露里ニ日本人監視者三名ヲ配置シ「ハ地」支線ニ於ケル支線ニ柵ヲ設ケ監視ニ努メソナルカ今後本問題ハ相當ノ波乱ヲ生スルニ至ルヘク殊ニ無

在滿洲里日本領事館

法ナル東支鉄道カ如何ナル手段ニ出スヘキヤハ規知シ難キモノアリ

以上

[Blank lined area for text]

在滿洲里日本領事館





22

通商局

公第五二號

昭和貳年四月十五日 接受  
昭和貳年四月十三日



外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

在武市  
領事 平塚晴倫



第一課

附屬物添付

歐米周

言

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通り報告ス

「スレケエンスケ」管区ニ於ケル豊富ナル森林。

1674/1/67

在セラゴエスチエンスケ日本領事館

スレケエンスケ管区ニ於ケル豊富ナル森林。
曩ニ後見加知ヨリ独立セル「スレケエンスケ」管
区内ニ於ケル森林地帯ノ廣サハ實ニ六百ニ萬ニ七
百六十四平方ナリ、假シニ之ヲ同管区内住民總數
二十一萬三千六百五十八人ニ割當ケル時ハ一人當リ
六十三・五「ヘクタク」ノ森林ヲ有スル「トナル」
ノナルガ、右ノ内現ニ住民ノ伐材中ニ傷ル分ハ僅ニ
八萬七千人百六十一「ヘクタク」ニ過ギズ、而シテ
該林区ノ樹種ヲ區別スル時ハ樺松七〇%、赤松二
一%、白樺及楊樹九%ニシテ全森林一年ノ成育率ハ

在外公館

171A.67 分類 E409.0.4

公 信 案	御参考ノ爲別紙送付ス	件名	受信人	發信人	級達名
		堪察加管区林業 関係件	霞鎖林業組合 (本橋大倉組内)	通商局長	各官 各官
外 務 省	(大正) 二年 二月 九日 附在 (下) 備來 (在) 機第一一號 寫並附屬書寫	管主	普通第八四八號	大正昭和元年五月貳日	日
		通商局長	號	大正昭和元年五月貳日	日
		文書課發送 昭和元年五月貳日 發送済		淨書	校(原稿)
		文書課長		淨書	淨書
		別紙		(甲號川紙)	

在 外 公 館

大正七年九月九日、俄國ハ白三十四萬八千五百米ナリ  
 七毛火災ノ爲年々焼失スル数量モ亦莫大ナルモノ  
 ナリ後見加力及ラスレケエニシテ、最近内一九二六  
 年迄ニ於ケル罹火災ノ回数、罹災森林地ニ  
 廣シ二萬二千七百七十七ヘク、焼失樹量十  
 萬四千四百立方米、ハ損害一萬二千五百留ニシテ右ハ  
 主トシテ森林管理法ノ不備ナルト監視人員ノ不足ニ  
 起因スト云フ(四月八日、哈府新聞紙所報)

在 本日帝國領事館

タズ河ハ今迄ソノ下流ノミ探検サレタハカリテ南部上流ノ方ニ大密林ノアルコトハ全ク知ラレテ居オカッタ。大密林ノアルコトモソノ中ニ毛皮獸ノ棲息シテ居ルコトモ有リ相オコトテアル。

新河川ハ發見ニ関シテ之亦アリ相オコトテ最近有名ナル水先案内人ベギトモハ「タイムイル」河ヲ發見シテ居ル。云々。

右御參考ニ報告ス

本信寫送付先  
在露大使

(分類 E 4.4.0.4)

在 本日帝國領事館

トシグラールニ十一日發「ロスタ」電報ノ傳フル所ニ依レハ學者士院探検隊ハ今回「タズ」河(「オビ」灣ニ注ク河)ノ沿岸ニ大密林繁茂シ貴重毛皮獸棲息シ居ルコトヲ發見シ又附近ニ一條ノ河川流レ居ルヲ發見セル由ナリ。

右ニ関シ當地ノ地理學者ハ左ノ通り語ツテ居ル。

西伯利「タズ」河沿岸大密林發見ノ件

外務大臣男爵 田中義一 殿

在「シベリヤ」帝國領事館  
事務代理外務書記生 高橋清四郎

昭和元年六月廿五日  
昭和元年七月拾八日接受

各領事館ニ送付スルモノナリ

情 2.7.25

38

通商局

急  
要  
處  
分  
6715

昭和二年八月廿九日 附

浦潮斯德

總領事 渡邊理惠

外務大臣 田中義一 殿

樺東國森林業トラスト (クリス) 所  
為漂流材ニ関ル件

別信公第三六一號 報告ノ本月九、十兩日當地  
方ニ稱シタル水害ノ為 流出シタル木材ニ関シ今般  
當地外務代官ヨリ別紙譯文ヲ通リ依頼越シ  
タル付テハ可然御答儀ノ上何分ノ後御回  
示相成度別紙譯文ニ通 添付此致申進ス  
在浦潮日本帝國總領事館

記

第105號

昭和二年八月二十日

外務代官代理 ジミドフ

護邊總領事殿

警備隊隊汽船「ニシヤン」號ハ北緯四一度五分東經一三〇度ノ海上ニ於テ多數ノ流水ニ出會セル旨八月二十日無線ヲ以テ報道セリ

租界國家林業トシテ(カリス)ハ右ハ八月十日乃至十日日本海北岸ノ暴風雨ノ爲生シテ洪水ニヨリ流失シタル自己所有ノ木材ト思惟スルヲ以テ右木材が朝鮮沿岸ニ漂着スルヲ思ヒ朝鮮沿岸ニ打上テシタル丸木若クハ日本領海ニ漂流シタル丸木ニシテ

在浦潮日本帝國總領事館

又ハ★**凡査**

何ノ雙方若クハ何レカ一方ノ所有ナルハ何レトシテハ二場ニ率テ官署ニ於テ商標日本官署ニ通知方取計ハ一度テ官署出タリ

海難ノ際ニ於テ財産ノ流失ニ關シ現行國際規定ニ依リ若シ木材が佐氏若クハ企業者ノ爲拾得セザルルトスルニ「トラスト」ハ右木材ニ對シ自己ノ權利ヲ喪失セズ「トラスト」ハ財産保護ノ目的、爲木材收拾者ニ對スル財產規定及收拾木材數量ニ關シ日本官署(日本官署)官署ヲ給テ外務代官若クハ在京城「トラスト」聯邦總領事館)ニ通知方ヲ以テ官署ノ佐氏ニ對シテ不達ク合ハ木材收拾者ノ朝鮮ニ於テ行フコトヲ合「トラスト」ニ許可方與セザリ然テハ何カノ優可照御取計相與シ度シ。

右件共電有  
至後為電  
陸向念先已  
因者言前  
御取計

37

電信課長 澤田

大臣

次官 傍

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 會計

寫送先

一一九八四略

ハバロフスク 本省

八月卅一日後發 九月一日前着

歐一

田中外務大臣

川角總領事代理

第一八五號

往電第一七八號ニ關シ

「ダリレス」流失木材及「大陸木材」カ個人企業ト造材契約ノ分  
中烏蘇里川對岸支那領ヘ漂流ノモノ合セテ約四萬本アリ「ダリレ  
ス」ハ保管料一本ニ付一留宛ヲ交付シ右回收方ニ關シ極執行政部  
ヲ經テ又本官ハ當地「大陸木材」ノ代表「マルコウイツチ」ノ申  
請ニ基キ支那總領事ニ交渉中ナリシカ同總領事ハ行政部外事課長  
ト水害現場ニ赴キ對岸支那官憲ニ懸合ヒタルモ同官憲ハ言ヲ左右

外務省

ニ托シ引渡ニ應セサル爲空シク歸哈シタルカ露國側ハ支那側ノ態  
度ニ對シ甚タ遺憾ト爲シ二十八日極執紙ニ之ヲ發表シタリ  
即日支那總領事ハ本官ヲ來訪シ自分ハ本件ニ關シ北京外交部ニ電  
請シ同部ヨリ吉林省長ヲ經テ對岸支那官憲ニ何分ノ訓令ヲ發スル  
コトニ取計ヒ置キタルニ依リ圓滿ニ解決スルナラムト述ヘタリ仍  
テ三十一日極執行政部長ニ聞合セタル處愈々北京ヨリ命令到達シ  
「ダリレス」ハ現場支那官憲ト本件ニ關スル協定ヲ遂クルコトト  
爲シタル趣ナリ  
在露大使ヘ轉電シ浦潮ヘ暗送セリ

外務省

36

通商局

二課

山崎館子  
山崎

671a 5045

文書課長

文書課發送 昭和貳年九月參日

主 管 米局長

主 任 米局長

淨書

正校(原稿)

(淨書)

九月五日

受 信 三浦 剛

人 名 阪上 總領事

發 信 人 名 甲 古 屋

件 名 米局長 林素太郎上  
新加坡 米局長 林素太郎上

級 達 名

右件 林素太郎上 於九月十三日附米局長 三六二号

ヲ以テ 仰付 於 承 知 於 米局長 國 務

公 信 案 米局長 林素太郎上 於九月十三日附米局長 三六二号

外 務 省

(乙) 號用紙 圓納

總領事館 於 朝鮮 總督府 存 查
右ノ了解ヲ 取付ケタル上 必要ノ 廣告ヲ 為
スルハ 何等モ 支 無カニ 付 存 豫 先
方ニ 回示 甚 幸 矣
尚 本 館 寫 字 樓 於 三 六 二 号 寫 字 樓 二 朝 鮮
總 督 府 へ 送 付 済

外 務 省

2 149

E-1934

0413





通商局

公第四一七號

昭和貳年九月拾八日

第一課

昭和貳年拾月拾八日接受

附屬書添付

通商局

外務大臣男爵田中義一殿

在オデッサ  
領事島田

領事印

ウクライナ共和國ニ於ケル森林ノ現状

及保護策ニ関スル件

本件ニ関スルウクライナスキイ・エコーニスト紙所載記事別紙ノ如ク譯載ス

在オデッサ日本帝國領事館

679.67

ウクライナ共和國ニ於ケル森林ノ現状  
及保護策

森林カ國民經濟上存スル意義ハ極ク重大ナルトハ  
論ヲ要セザルトモテアル 従来ウクライナ地方ハ森林  
ヤキニモ物ラズ住民ノ森林ニ對スル態度ハ頗ル冷淡  
ニシテ幾多ノ美林ハ伐採セラレテ収入多ク耕地ト化セラ  
レ森林ノ面積ハ年々減少シツアル有様ナリ在  
ニ據ケル數字ハ此ノ間ノ消息ヲ確證スル物語ナリ  
モテアル

年次	森林總面積	伐採面積	年平均伐採率
一八九一年	四二六、七〇〇		
一九一四年	四三三、三〇〇		
一九二〇年	四〇一、四〇〇		

ニ個年間 二五、〇〇〇

在オデッサ日本帝國領事館

E-1934

0415

一九二七年 三〇四、三〇〇  
 一九二八年 三〇四、三〇〇  
 一九二九年 三〇四、三〇〇

右表に示す如くウクライナ共和国に於ける伐採高は年々増加の傾向あり殊に近年に至り著しい増加率を示して居る。國營林は、外にハ高約二〇〇、〇〇〇ヘクタール、荒地アルモ其ハ約ハ砂地六〇〇、〇〇〇ヘクタール、急傾斜地及濕地一四〇、〇〇〇ヘクタールにシテ此ノ中ヨリ植林ヲ行ヒ得ルモノアリトモモ夫ハ極ナテ限定セラレタル面積ニ過キナイ。現存ノ森林ハ全ク急傾斜地ニシテ居ルニシテ、極ニ低ク仕事ニ熱心セル専門職スラ月額平均十セブ留ヲ得ルニ過キヤルヲ以テ樵夫ノ賃甚タ低下シ組織的伐採法ノ心得ナキ者大多數ヲ占ムルニ至リ

在オデッサ日本帝國領事館

タル為テアル森林ニ於テ一般住民ノ見方モ亦頗る單純且樂觀的ニシテ甚クシテハ森林トハ何等ノ手入ヲ要セス自然ニ放置シ置キモ収益ヲ尙ス富強ナリト迄極端ニ考ヘ居ル者モ亦ナクナリ候テアル。一九二七年度ニ於ケルウクライナ共和国ハ、森林面積ノ甚大ナル割ヲ得テ居ルニ人モ亦僅シク、テニシテシテ過キナイ。専門家ノ觀察スルトコロニ依レハ、國住民ノ木材ニ於テ必要ヲ完全ニ満足セシムルニハ斯ク共一人モリ、〇、三ヘクタールノ森林ヲ要スルトノコトアル也。實際ノ状況ニ照合スルニウクライナ共和国ハ、於テ年々消費セラレル木材總量中、同國自ラノ供給ニ係ルモノハ僅シク、三分ノ一ニ過キス他、三分ノ二ハ隣邦スル他ノ諸地方ヨリ輸入セラルル有様ナルカモレテ也。

在オデッサ日本帝國領事館

中端ニ於テハ尚ホ常ニ木材ノ供給不足ヲ感シテ居ル  
 森林ヲ國ハ有ニルルヤハ住民ノ需要ヲ充足セシ  
 得ルニミナラス冬季農民ノ閑散ナル時ニ於テ其ノ  
 勞働ヲ保護シテラ坐業状態ヲ得ル得ル得ルカ  
 又木材ハ容量大ニシテ其運賃巨額ニシテ以テ之ヲ  
 自國ニ求テ得ズ他地方ヨリ遠距離ヲ輸送スルニ於テ  
 ハ甚々其ノ市價ヲ高カラシムルコトヲ考セテハイラズ  
 ウクライナイノ森林ノ現状ニテハ假令最大限度ノ努力  
 ヲ致ストモルモ國内年需要高、四三〇〇ク充足シ得ル  
 ノミニシテ年々他地方ヨリ木材ノ價額ハ二八〇〇  
 〇〇〇留ニ達ス國管林以外ノ荒地ハ天然ニ放任シテ  
 者ラレナイカカテ適当ニ利用スレハ年々相當ノ收益ヲ  
 得ルコトヲ得ルテアロウ更ニ露國ノ膠州ニウクライナイノ

在オデッサ日本帝國領事館

トリ森林ノ重要ナル以テハ森林ハ氣候ヲ緩和シ水  
 滲ノ涸竭ヲ防止スルト共ニ克ク雨季ニ於テハ河水  
 ノ氾濫ヲ調節シ以テ一般農作物ノ收穫率ヲ高メ  
 ルモノナルカラ晩近邊性的作物不良ニ苦ンテ居ル各地  
 方ノ作況改良ノ重要ナル一策トモナリ得ルコトナル  
 ウクライナイ當局ニ於テモ當レ此ノ事ニ留意シ森林ノ保護  
 増進ニ因シテハ左記ノ如キ方針ニ出フル可ク目下具體策  
 考案中ナル  
 一 國経者ニ於テ森林ノ重大ナル意義ニ因テ觀念  
 ノ養成並ニ林業ニ對スル一般智識ノ涵養ヲ計  
 ル爲青年ノ間ニ極力宣傳ヲ爲ス  
 二 森林ハウクライナイノ農林工業ノ必要ナル最低限  
 度ヲ保證ス可キ限地面積ノ〇〇〇〇〇〇〇ノテ

在オデッサ日本帝國領事館

増加セシメ荒蕪地ハ最大限度ノ植林ヲ施シ既  
 ニ開墾シタル農耕地ニ在リテモ植化スル方收益アリ  
 ト見ラレルモノハ之ヲ森林ニ變スルコト  
 ③ 國營林田ノ秩序化ヲ計リ殖伐ヲ嚴禁シ伐採ト  
 共ニ計劃的ニ植林シ美林中ニ生スル雜木ハ之ヲ取  
 除キ若地田ニ付特ニ適スル樹種ヲ植林シ最大ノ能  
 カヲ發揮セシムルコト  
 ④ 國營林田ハ之ヲ平均ノ田ニ付五〇〇〇ヘクタールヲ越ス  
 ギル幾多ノヤ林田管理田ニ分轄シ若ヤ林田ニハ農  
 圃ノ林學家ヲ配スルコト  
 ⑤ 樵夫ニ對シテハ各種ノ特典ヲ供與シ其ノ生活ノ改善  
 慰安的機關ノ設置等ノ方法ヲ講ジ賃優良イルモノ  
 ヲ招徠スルニ努ムルコト

在オデッサ日本帝國領事館

垂之ウクライナニ於ケル森林ノ復舊ハ刻下ノ急務ニシテ  
 木材ノ自給策ヲ確立スルハウクライナノ經濟的独立ヲ促ス  
 以新テアル  
 (九月十三日ウクライントキーエモノニスト所載)

在オデッサ日本帝國領事館

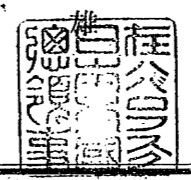
公第 〃 〃 號

第一課 加瀬 石村 昭和貳年拾月卅壹日接受 附屬書添附

昭和二年十月二十日

在ハバロフスク

總領事代理 川 角 忠



外務部 通 達

外務大臣男爵 田 中 義 一 殿

「ヤクートスク」共和國內農林調査隊歸來談ニ  
關スル件

〃月〃日付公第〃〃號掛信(秘東地高シヤトウ路和國南交通)ニ關聯シ本件  
ニ關スル極執機關紙記事別紙ノ通り茲ニ報告ス

67/a.67

「ヤクートスク」共和國內農林調査隊  
歸來談ニ關スル件

當地殖民局ノ發意ト「ヤクートスク」共和國政府並露西亞共和國農  
務人委員部ノ希望トニ基キ農林學術調査隊ハ豫テ「ヤクートスク」  
共和國ヘ派遣サレテイタガ此ノ程同地カラ歸來シタ右調査隊ハ「ヤ  
リン」氏ヲ隊長トシ農林技師「マズレンコ」外八名カラ成リ一行ノ  
使命ハ交通入民委員部ノ企畫セル烏蘇里鐵道「ネウエル」驛カラ(一  
但シ「ルフロウオ」驛附近)「ヤクートスク」市ニ到ル道路建設ノ  
能否ヲ明ラカニスルコトデアツタガ一行ハ更ニ「ヤクートスク」共  
和國ノ富源ヲ開發スルノ可能ナルコトヲ釋明シタ一行ハ「レナ」河  
及其ノ支流「アルダ」河「アレクマ」河「マヤ」河等ノ諸河川地  
方ノ山路千二百軒ニ亘ツテ調査ヲ遂ゲタ  
一行ニハ十五匹ノ馬ガ居テ澤山ノ秣ヲ積ンデイタカラ全行程ハ主ト  
シテ徒步デアツタ

E-1934

0419

調査事業ハ到ル處デ氷ヤ沼澤地ヤ樹木ノ繁茂セル密林ニ出會スル等頗ル困難デアツタ又調査事業ハ夏期ニ着手シタニモ不拘同地方ノ夜間ノ溫度ハ四度位ニ降下シタ

右ハ當地方ヨリ「ヤクイトスク」共和國ヘノ最初ノ探險デアルガ其ノ使命ヲ了ヘ而モ人的犠牲モ無ク好結果ヲ得タコトハ大成功デアアル

「ヤクイトスク」共和國デ有望ナノハ農村經濟ト牧畜業トデアロウ

現在「ヤクイトスク」共和國デハ百萬布度（一布度ハ我四貫三百六十匁）ノ穀物ヲ産出シテイルガ尙同地方ノ需要ヲ充タスニ足ラナイ

農林技師「マズレンコ」氏ノ談ニ依レバ「レナ」河ノ流域及同支流「アルダン」河「アング」河「ウヂユラ」河「マヤ」河「オレクマ」河諸地方デハ小麦ヲ栽培スルコトガ出來ルトノコトデアアル

「ヤクイトスク」共和國デハ土地整理ニ依ツテ同地ノ農村經濟發達ヲ促スコトガ出來ル

現在「ヤクイトスク」共和國嶺山地方ニ於ケル麥粉一布度ノ價格ニ十留デ秣一布度ニ付六留ト云フ高價デアアルガ之ハ四季ヲ通ジテ行ク

コトノ出來ル道路ノナイコトニ起因シテイル

交通人民委員部ノ企畫セル烏蘇里鐵道「ネウエル」驛カラ「ヤクイトスク」市ニ到ル道路ガ建設サル、コトニナレバ「ヤクイトスク」共和國ノ經濟生活ハ一新サレルデアロウ

尙探險隊一行ノ調査資料ハ今後三ヶ月内ニ「ヤクイトスク」共和國計畫圖ト共ニ完成サレルコトニナツテイル

昭和二年十月二十日極執機關紙

ス  
二

分類 E 4. 4. 0. 4 )

679.67

送後  
送後

山形県  
山形県

公文書案	昭和二年九月十八日附在 普通第 47 号 外務省	ニ付爲御参考右茲ニ送付ス	本件ニ關シ今般在 別紙寫ノ通り報告アリタル	件名 林況状及保護等 林況状及保護等	人名 入江農務省山林局長	發信 入江農務省山林局長	主 管 局長 局長	文書課發送 昭和貳年拾月拾日發送濟	文書課長
				送後	普通第 47 号	大正 昭和貳年拾月貳日	附屬書 通	正校原稿 正校原稿	別紙

E-1934

0421

手紙  
長崎

歐米局

第一課



昭和貳年十二月廿壹日接受

第 121 號

別紙添附

通商局

在浦潮斯德

昭和二年十一月九日

總領事 渡邊理惠



外務大臣 田中義一 殿

法海地方ノ植林ニ関スル件

本件ニ関スル件月六日七日書留管已核南東渡紙草  
命十週年紀念號掲載記事別紙ノ通リ譯出  
供呈覽

在浦潮斯德

在浦潮日本總領事館

67/a.67

E-1934

0422



沼田地方ノ林業

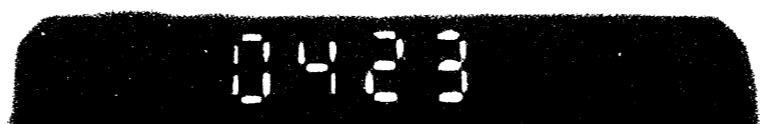
戦前年々国内産材多ク拂下ケル、約二千八百立方呎ノ  
 木材中外國ニ輸出セラル、ハ僅カニ二百立方呎ニシテ  
 大部分ハ軍用材及市建築用材トシテ使用セズナリ  
 帝國主義戰及國內戰ノ數年内國內市場ニ於ケル木  
 材ノ需要ハ激減（軍用家屋及市民家屋建築ノ中止）  
 シタトシ、一九一八年以後、其ノ輸出ハ大ニ増進セリ  
 木材輸出額”左ノ如シ

数量（單位年立方呎）

一九一七	一九二二
一九一七	一九二二
一九二〇	一九二〇
一九二七	一九二七

沼田地方木材ノ主要販賣市場ハ日本ナリ、日本ニ於テ  
 在浦潮日本總領事館

ハ製紙ノ業及燐寸ノ業大ニ發達シテ巨額ノ木材ヲ  
 需要シ、其ノ消費高ハ約一億立方呎ニシテ、近キ得  
 着ニ於テ是ニ増加ス（キハ疑ナシ、日本ノ外交那、濠洲  
 及印度ニ輸入材ヲ付送トシ、其ノ需要總額約九千  
 万立方呎ニシテ、之等諸國ハ北米ヨリ輸入シ、仰テ  
 フ所ナリ、沼田地方材ハ木材ニ比シ遠カニ日本及支那ニ  
 接近ス、即チ沼田地方ヨリ日本へノ距離ハ約七百五十哩  
 ナルニ、米國太平洋沿岸ヨリ日本へノ距離ハ四千五百哩ヲ  
 越スルヲ以テナリ、沼田地方ハ斯ク距離ニ於テハ有利ナルニ  
 米國ニ豐富ナル如キ大船舶ト低廉ナル運賃ヲ有セ  
 ズ、日本人ハ若シ獨占ノ特權ヲ服セントスル、則チ  
 上級ニ沼田地方材ニ依ルテ、幾分有利トスルニ至リ、然レ  
 ども、沼田地方ニ於テ、其ノ需要量ヲ考量セリ。沼田地方ニ於テ







# Ключ к активному балансу

До войны ежегодно на государственные лесные дач отпускалось не более 20.000.000 кубофут. из них только 2.000.000 кубофут вывозилось за границу, а подавляющее большинство лесоматериалов шло на военные нужды и городской строительный рынок. Потребление леса на внутреннем рынке резко сократилось в годы империалистической и гражданской войны (прекратилось вообще в гражданской строительной). Зато, начиная с 1918 года, стал сильно расти лесозаказ экспорт за границу.

**ЭКСПОРТ ЛЕСА ЗА ГРАНИЦУ.**

Годы:	Тысячи кубоф.
1917	1928
1925/26	12600
1926/27	15330

Главным рынком сбыта для нашего лесозаказа является Япония, где сильно развилась деревообра-

батывающая бумага. Спичечная промышленность, потребляющая огромное количество лесоматериалов. Годовая потребность Японии в импортном лесе определяется около 100.000.000 кубофут. с несомненным увеличением в ближайшие годы. Кроме Японии нуждаются в импортном лесе Китай, Австралия и Индия, общая годовая потребность которых, примерно, исчисляется в 90-100 миллионов кубофут. Все эти страны получают лес из Северной Америки.

Приморский лес ближе к Японии и Китаю, чем американский — от Приморья до Японии около 750 миль, а от тихоокеанских берегов Америки до Японии свыше 4500 миль. Выгода в расстоянии, мы не имеем того, чем богата Америка, — колоссального тоннажа и дешёвых фрахтов.

Японцам, уже отчасти выродно опираясь на приморский лес, в борьбе за независимость от монополии американского лесного капитала. Эти факты и учла советская государственная лесная промышленность.

Первые два года советской власти в Приморье частный капитал еще держался в лесопромышленности, но в 1924-25 году, отпуская лес, частным лесопромышленникам уже сократился.

Сокращение лесозаказа в руках государственной организации ослабляет нажим на нас иностранного капитала и позволяет регулировать стоимость экспортной лесной продукции, в соответствии с действительной ее стоимостью.

С ростом использования леса растут чистые доходы государства.

## ДОХОДЫ ОТ ЛЕСА.

Попенные и др. сборы в 1923 г. — 50 тыс. руб., в 1922-23 году — 1140 тыс. руб., в 1923-24 г. — 2045 тыс. руб., в 1924-25 г. — 1286 тыс. руб., а в 1925-26 г. — 1251 тыс. руб.

Стоимость вывезенного за границу леса по годам определяется так:

В 1922-23 году — 8,23 мил. руб., в 1923-24 году — 11 мил. руб., в 1924-25 году — 8,5 мил. руб., в 1925-26 году — 9 мил. руб., в 1926-27 году — 9 мил. рублей.

К этим суммам надо прибавить стоимость леса, потребленного в самом Приморье. Таким образом государству начиная другая отрасль про-

мышленности край не дает. И доход этот поступает преимущественно в виде валюты.

Лесная промышленность не только первая по доходам и поности продукции, но занимает видное место в по числу рабочих на лесозаготовочных и лесных предпринятиях Приморья. До революции в нашей лесопромышленности было занято 14.122 рабочих и служащих, а за последние годы и теперь — свыше 20.000 человек.

Необходимо отметить, что в северных районах остро ощущается недостаток в рабочих на лесозаготовках. Рабочих, особенно, возчиков, трудно привлечь в эти отдаленные и глухие районы. В дальнейшем, лесопромышленность Приморья должна измывать недостатком рабочей силы механизацией лесозаготовок и перевозок, а также и привлечением рабочих рук из СССР.

Лесная промышленность Приморья должна развиваться также по линии переработки своего сырья на полу-сырье (подолочные материалы) и различного рода ценные фабрикаты из древесины.

До войны в Приморье работало 46 лесопильных заводов с 81 рамой, теперь только 6 государственными заводами с 20 рамами и 5 частных с 11 рамами. Внутренний рынок незначителен, а вывозится лес по обработанный. Недавно в Приморье пущен завод государственной фанерной завод (на Океанской) с возможной годовой производительностью в 10.000.000 кубофут. Фанере обеспечен сбыт на зарубежных рынках, и эта отрасль производства имеет хорошие перспективы.

Для окончательного укрепления и роста нашей лесопромышленности необходим приток в руб государственными и кооперативными капиталами.

Широко поставленная в ближайшем будущем лесозаготовительная и деревообделочная промышленность создаст новые спичечные, фанерные, поллилозные, мебельные и бумажные фабрики и заводы, запасы сырья для которых неистощимы. Переход от экспорта лесосырья на полу-сырье и готовую изделия (для внешнего и внутреннего рынков), значительно, повысит общую доходность советскому государству от наших лесов. Это задача ближайших лет.

王甫調 日本帝國總領事館



寫

武北保第三六七四號

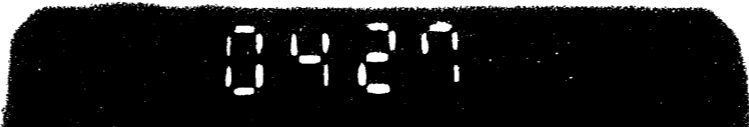
昭和二年十月二十日

武鏡北道知事

朝鮮總督府官房外事課長殿

露領沿海州國營樞東林業上ノ漂流木ノ圍ニ付  
 九月九日及同日ニ付御通報相成候旨題ニ對シテ管  
 下雄基警署管内ニ於テ檢得ル者左記ニ付  
 價格十分一ノ報當至テ提供也  
 陸本林株式會社出張所土田勇代理ノ南鍾海ニ  
 引渡候條御參考及及通報候也

記





通商局

文書課長  
公 信 案

別紙

發書月廿六日  
(甲號用紙)

文書課發送 昭和貳年發書月廿六日發送済

淨書

正校(原稿)

(淨書)

主 管 歐米局長

主任 第一課

昭和貳年發書月廿六日

改 普通第 五九〇 號

大正 年 月 日 附

附屬書 通

受信 農林省

人名 入江山林局長

發信 人名

堀田政米局長

件名 露領沿海地方ノ林業ニ関スル件

名 込 綴

御參考ノ爲別紙送付ス

昭和二年一月九日附在 郵船來信 第四五四號寫並附屬書寫

公 信 案

外 務 省

歐米局

第一課

昭和貳年拾日府接受 附屬書添附

昭和二年十二月七日

朝鮮總督官房外事課長 松村

外務省 歐米局長 殿



露領沿海州國營極東林業トラスト漂流材ニ關スル件

本件ニ關シ昭和二年九月三日附歐一第 三八九號ヲ以テ外務次官ヨリ  
政務總監へ御來牒ノ次第有之候處本件ニ關シテハ在京城「ソヴィエト」  
聯邦總領事館ヨリ照會ノ次第モ有之所轄道知事へ通牒致候處右ニ對シ  
極東林業「トラスト」代理人土田勇ヲシテ拾得者ニ法定ノ報勞金ヲ提  
供セシメ該漂着材ヲ引渡シタル旨別紙寫ノ通同知事ヨリ報告ニ接シ候  
條御了知相成度右及通報候也

671a.67

671a.67

26 8

米表分

670.67

外務省歐米局長殿

昭和二年十二月十四日

朝鮮總督官房外事課長 松村

昭和貳年三月廿壹日接受



第一課

朝鮮總督

1217

露領沿海州國營極東林業「トラスト」  
漂流材ニ關スル件

本件ニ關シ十二月七日附及通報置候處十一月十七日威鏡北海道西水羅警  
察署ニ於テ國營林業「トラスト」代理人ヲシテ拾得者ニ法定ノ報勞金  
三百五十圓四十錢提供セシメ漂着材四百九十九本同代理人ニ交付濟ノ  
旨同知事ヨリ報告ニ接シ候條御了知相成度右及追報候也

文書課 長官

公文

別紙

拾遺拾九拾紙

19 41

通商局

第二課

山手島

6716.45

主 管 歐米局長	主 任 第一課	文書課發送 昭和貳年拾月九日	校(原稿)	淨書
受 信 在浦潮	發 信 田中 外務大臣	政一普通第八七號	附 屬 書	通
人 名 渡辺 總領事	名 込 綴	大 昭和貳年拾月九日		
件 名 極東國營林業「トラスト」所屬 漂流材關スル件				

本件ニ關シ  
本年九月三日附政一普通第六二號末段關シ今般朝鮮  
總督府ヨリ別紙寫ノ通回報有リタルニ付本細右事待

和相成度

昭和二年十二月十四日  
朝鮮總督官房外事課長 松村

昭和二(年)十月廿日附朝鮮總督官房外事課長  
某信寫及今附屬書寫一齊宛送付ト



(分類E門ノ類ノ項6目ノ)

671554)

文書課長  
文書課發送  
昭和貳年 貳月 貳日 發送済  
淨書  
正(原稿)  
拾貳月廿六日  
(甲) 號用紙

主 任 主 任  
管 監 督 課  
八八 號 大正 昭和貳年 貳月 貳日  
普通 第一 號 大正 昭和貳年 貳月 貳日  
附屬書 通

受信 在浦潮  
人名 渡辺總領事

件名 露領沿海州國營極東  
林業トラスト漂流材ノ因付件

本件ノ因シ曩ニ本月十九日附政(普通)分八

七号ノ以テ申進(重名)アリ今般朝鮮

總督府ヨリ重名ヲ別紙寫シ通(回報)式

公 信 案 外 務 省

(成號用紙)

夕心ニ付古参考止、右紙送付ス
昭和貳年 貳月 貳日 發送済
淨書
正(原稿)
拾貳月廿六日
(甲) 號用紙
外務省

24 記 12

22

通商局

6719.62

歐米局

本第一三號

第一號

加瀬

昭和三年七月廿六日接受  
(庚號用紙)

別紙添付

昭和三年六月二十八日

在ベトロパウロフス

領事館事務代理

杉田正綱

日本領事館  
在ベトロパウロフス

外務大臣 野村 田中義一 殿

勸業地ノ森林利用ニ関スル件

本件ニ関シ當管區機關紙掲載記事ノ何等申付テ  
考迄譯出ノ上別添付通函送付ス

在ベトロパウロフスク日本領事館

E-1934

0432

勸業地、森林利用

カムチヤトカ、河流域、大森林地帯、ニテ、莫ク森林王  
國デア、談地方ヨリ、毎年莫ク大数量ノ木材ヲ供給スルコトガ  
出テ、此等森林調査ノ結果ガ、諸トコロデア、然ルニ今日  
迄、此ノ最モ豊富トシテ、可能性、對シ、何等必要トシテ注意モ  
リス、森林、亦、希、越、端、ト、ト、ト、反テ、島嶼地、同地  
方ノ木材ヨリ、遠ニ、高價ヲ輸入シ、洪水、襲、コ、テ、店、ノ、状態  
デア、

現在ニ於テ、森林業、北点ニ接近シテ、故、革命委員會  
一、九、二、九、年、以降、遂ニ、ウ、ス、ケ、カ、ム、チ、ヤ、ト、カ、地方ニ、製材工場ヲ  
建築設備スルコトヲ、緊要ト、認メテ、店、

在ベトロバウロフスク日本帝國領事館

ベトロバウロフスク市及其附近地方ニ於テ、建築ノ開始セラレシムコト等  
ニ依リ、催進的ニ要求セシメテ、店、

株式会社、ア、コ、リ、其ノ製造、計画中、漁業用、カ、ラ、ラ、(風袋トシテ使  
用スルモノ)用材ノ仕上企業創設ヲ、目論ムテ、店、

革命委員會、管區改善ヲ以テ、製材工場ノ建設スルコトヲ  
適当ト、認メテ、店、ガ、ア、コ、リ、ニ、對シ、單ニ、白、己、ノ、營業上ノ、需要  
ヲ、滿ス、業、改、メ、テ、白、己、ノ、計、画、ヲ、建、ツ、ル、ニ、ト、ナ、ス、同、時、ニ、地方市

場ニ於テ、木材需要ニ、考量ヲ、加、シ、標、中、入、シ、ト、シ、テ、ハ、革  
命委員會、管區改善ニ、依、リ、工場建築ノ、要、後、善、願、ヲ

分離シ、他ノ産業ノ、用、途、即、チ、一部、ノ、煉、瓦、製造、ニ、利、用、ス、ル、コ  
トヲ、必要ト、認メ、タ、カ、ラ、ラ、デア、

(一九二九年六月廿四日 雅星也ヨリ)



23

2

文書課長

公 信 案

別紙

(原議用紙甲)

文書課發送

昭和三年七月四日發送済

淨書

正(原稿)

(淨書)

主 管 歐米局長

主 任 第一課

昭和三年七月十九日

歐一普通

一六二

昭和三年七月感參日附

附屬書

通

受信 農林省入江山林局長  
人名 露領林業門野社長

發信 堀田欧米局長

工業俱樂部内  
件名 堪察加ニ於ケル森林利用圖ニ伴

本件ニ關シ今般在、ペトロワワスノ秘田事務、別紙寫ノ通報告アリタルニ

付爲御參考右茲ニ送付ス

(昭和三年六月二十八日附在、ペトロワ館來) 電機第一三號寫並附屬書寫

公 信 案

外 務 省

3.2

21 32

E-1934

0434

671A.67121  
分類 E 4. 4. 0. 4 )

欧二

公第三二九號

昭和三年十月十八日

在浦潮新德

總領事 渡邊理惠

外務大臣男爵 田中義一殿

米人林業家ノ來浦ニ関スル件

米國大林業資本ノ代表タル「アルバート・カリヨット」  
ク、ラム「ロバート・エス」  
「ボーシバルラド」ナル四米人ハ  
在本邦親聯通商代表部ノ勸業以株式會社宛  
紹介状ヲ携ヘ東京發。木材伐採ノ機械化ニ関シ  
哈府ニ於テ極東同業林業「トラスト」ト定歩ノ為本

在浦潮日本總領事館

月十五日 敦浦聯絡船 嘉義丸ニテ來浦、内「ボーシバルラド」ハ同船ニテ東京ニ引返シタルガ、殘餘ノ三人ハ  
米國ニ於ケル伐木機械化ノ狀況ヲ示ス為 携行セル  
特別「フィルム」ヲ十七日當地經商會館ニ觀覽  
セシメタル後同日哈府ニ向ケ發致セリ

右ノ報告 在露大使 在哈府總領事

若國林業ノ事

昭和三年十月廿九日發

28

外務省

第一課

昭和三年三月五日

別紙添付

公第 二九一 號

昭和三年十一月二十一日

在 ハバロフスク

總領事 山 口 爲 太

外務大臣 爵 田 中 義 一 殿



日本ニ赴キタル極東林業「トラスト」社長ノ歸來談譯報ノ件

今般我日露木材會社ト木材賣買契約改締ノ爲日本ニ赴キタル極東林業「トラスト」社長兼極東國民經濟會議委員「マズレンニコフ」ハ先般歸哈シタル處其ノ歸哈談當地極東執行委員會機關紙ニ掲載セラ

671A.67

レタルニ付右何等御參考迄別紙ノ通り譯報ス

BII

極東林業「トラスト」社長ノ歸來談

(十一月廿日附「チホオケアンスカヤ、ズヴェズダ」紙掲載)

余ノ日本行ノ主要目的ハ日露木材會社トノ我木材輸出契約ノ改締デアツタ余ハ一九二九年度ニ造材セラルル約二千七百立方「フート」ノ賣却ニ對シ依託販賣ノ基礎ニ於テ改締ヲ行ツタ本契約ニヨレバ日露木材會社ハ極東林業「トラスト」ニ對シ木材ノ船舶積込ニ至ル迄ノ約定價格ノ七割ノ金融ヲ爲シ且海上運送料及荷揚、保藏、購入者ニ對スル木材引渡等ニ關聯スル日本ニ於ケル一切ノ諸掛ヲ負擔スルコトトナツテ居ル此ノ外本契約ニハ尙重要ナル一面ガアル即チ從來「トラスト」ハ日露木材ノ金融ニ對シ年一割五分ノ利子ヲ支拂ツテ居タガ今度ニ僅カ九分ノ利子ヲ支拂フノミニテ我方ニ取ツテ著シキ

BII

節約トナルノデアアル尙日本ニ於ケル木材ノ販賣方法ヲ定メタガ茲ニ序ナガラ一言スベキハ最近同國ニ於ケル我木材ノ販賣ガ非常ナ速度デ行ハレテ居ルコトデアツテ例ヘバ本年十一月一日現在ニ於テ日本内ノ未販賣木材ハ全部デ僅カ四百立方「フート」アルニ過ギナイ本年ハ我木材ヲ日本北部諸港及朝鮮ニ輸送スルコトニ成功シタ我々ハ近ク極東露ニ於ケル最高價木材タル西洋松ヲ一定限度ノ數量ダケ日本ニ輸送スルタメノ一設設備ヲナシ同時ニ樅、落葉松ノ輸出ヲ盛ニスル様全力ヲ盡シテ居ル西洋松ノ總輸出量ハ千五、六百万立方「フート」ノトコロデ安定ヲ保タセルダロウガ樅、落葉松ノ輸出ハ四万立方「フート」ニ達セシメルデアロウ

BII

近キ將來ニ於ケル我根本商取引ノ任務ハ購入者ニ對スル木材引渡  
シヲ日本デノ測量ニヨラズ積荷證券<sup>インボイス</sup>ニ依ツテ行フコトデアル<sup>而シテ</sup>  
「トラスト」ハ購入者ヲシテ積荷證券記載ノ數字ヲ信用セシムル爲  
沿岸及鳥嶽里鐵道沿線ニ其ノ測量機關ノ設立ニ著手シタ本機關ハ正  
確ニ日本尺度(寸)ニ依ツテ木材ヲ測量スルコトニ努力スルデアロ  
ウ  
日本林業界ニ於テハ「トラスト」ノ目論見中ナル北樺太<sup>本</sup>内河流域  
ノ林業ニ對シ非常ナ興味ヲ有シテ居ル  
「トラスト」ハ若シ本事業開始ノ曉ニハ<sup>本</sup>内河ニ依ル南樺太ヘノ木  
材流送ニ對シ日本林業家ガ援助ヲ供與スルダロウト期待シテ居ル次  
第デアル

BII

近年日本ニ對スル我木材<sup>本</sup>ノ輸出ハ<sup>絶</sup>トズ進展シテ居ル例ヘバ一九二  
六―二七年ニハ一千五百五十万立方「フット」一九二七―二八年ニハ  
一千九百五十万立方「フット」ヲ輸出シ又一九二八年二九年ニハ二  
千七百万立方「フット」ヲ輸出スル豫定デアルスノ如ク我木材輸出  
ノ發達セシハ主トシテ競争ノ結果各地ニ於ケル市場ヨリ米材ヲ驅逐  
シタル爲デアル然シ之ガ爲本年ハ販賣價格ヲ幾分低減スルノ已ム無  
キニ至ツタ  
我木材ガ米材ヲ驅逐シタル所以ハ主トシテ我木材ノ品質及其ノ廉價  
ノ反映デアル  
尙余ニ製材工場及被木工場ノ事業視察ノ便ヲ與ヘラレシ秋田木材會  
社ニ對シ深ク感謝スル且余ハ我極東露林業ニ對スル設備ノ供給ニ對

BII



シ秋田木材會社ノ申出ト我林業ノ需要トヲ聯結スルノ可能ナルコト  
ニ付大ニ興味ヲ感ジタ  
極東露ニ於ケル林業ガ發達シ且ツ日本林業界トノ關係ガ鞏固ニナル  
コトハ延イテ日蘇間ニ於ケル經濟上ノ相互關係ヲ益々鞏固ナラシム  
ルモノデアアル

BII

E-1934

0439

26

歐米局

第一課

昭和三年十月拾貳日發

公第三〇二號

昭和三年十一月三十日

在ハバロフスク

總領事 山口 爲 太

外務大臣男爵 田 中 義 一 殿



極東林業「トラスト」ノ北樺太ニ於ケル森林開發  
着手ニ關スル件

本件ニ關シテハ本月二十一日附公第二九一號拙信ヲ以テ及報告置タ  
ル極東林業「トラスト」社長渡日歸來談中ニモ言及シアリタル處今  
般當地極執委員會機關紙ノ報スル處ニ依レバ同「トラスト」ハ本年

8714.67

BII

北樺太ニ於ケル森林根據地調査費トシテ七万留ヲ支出シ森林  
經費ヲ以テ其ノ使命トシテ森林ノ合理的開發ノ可能性ヲ明白ナラシ  
ムヘク活動シ居ルモ右ヲ以テ不充分トシ遂ニ「トラスト」ハ一九二  
八―二九年度ニ於テ試験的木材伐採ヲ行フニ決シ北樺太東海岸ニ於  
テ北樺太石油「トラスト」用トシテ二十五万立方「フート」及西海  
岸ニ於テ極東石炭「トラスト」企業、利權業者竝ニ豫備用トシテ七  
十萬立方「フート」合計九十五萬立方「フート」ヲ伐採スル豫定ナ  
リ且右試験的伐採ヲ行フ傍秋冬季ニハ幌内及「トキイミ」河流域ニ  
於テ森林伐採ヲ發展セシムル可能性ノ有無及之カ施行條件等ノ調査  
ヲ行フ旨ニテ既ニ亞港ニハ該地方事務所ヲ設置シ職員ノ人選及勞働  
力ノ募集ニ着手シ居ル趣ナリ

尙北樺太ノ林業ニ付テハ同地ニ於ケル我利權業者又ハ本邦人中ニハ  
 夙ニ之カ利權獲得乃至日蘇合辦經營ニ注目セル向モアリ旁參考ノ爲  
 露側調査ニ基ク北樺太森林地帯及主要樹木名概要左ニ記サン

北樺太ノ總面積三百十四万七千「デシヤチン」(一デシヤチ  
 ン」ハ我一町一段四畝強)中森林地帯ハ二百五十万「デシヤ  
 チン」ヲ占メ未伐採森林地帯二百二十五万「デシヤチン」中  
 伐木上最便利ナル森林地帯ハ百五十六万「デシヤチン」ニシ  
 テ年伐採可能量五千八百三十万立方「フート」ナリ  
 主要樹木ハ落葉松、エゾ松、樺ニシテ西海岸ノ南部河川流域  
 及山岳ニハ潤葉樹ニ屬スル白樺、ハンノキ、白楊、アツニ、  
 エゾノウハミツヅガラ等繁茂セリ  
 右重要樹木ノ繁茂セル地域ヲ示セハ左ノ如シ  
 落葉松 六二五、〇〇〇 デシヤチン 二八%  
 BII

フレ内省果ル

エゾ松、樺	一、〇〇〇、〇〇〇	デシヤチン	四四%
朝鮮松	二五〇、〇〇〇	同	一一%
落葉松屬 潤葉樹	三七五、〇〇〇	同	一七%

本信寫送附先 在軍港總領事

BII

BII



25  
11

文書課長 塚

公 信 案

昭和三年十一月廿一日

(原議用紙甲)

文書課發送

昭和三年十一月廿一日發送済

淨書

正校(原稿)

(淨書)

記

主 管 主 任 第一課

歐一 普通 〇〇〇〇

昭和三年十一月廿一日

日附

附屬書 通

受 信 入 江 農 林 省 山 林 局 長

類 所 永 米 所 工 業 俱 樂 部 内

發 信 堀 田 欣 示 局 長

人 名 阿 野 露 領 林 業 會 社 長

木 村 翰 村 長 的 政 策 等 本 表 表 示

名 込 綴

件 名 露 國 極 東 林 業 ト ラ ス ト 社 長 ノ

渡 日 談 話 ニ 関 ス ル 件

御 參 考 ノ 爲 別 紙 送 付 ス

✓ (昭和三年十一月二十一日附在ハコジヨウ録來(往)電機 第三九一號寫並附屬書寫)

公 信 案

外 務 省

3.2

20 92

E-1934

0442